



上海図書館新館落成記念式典に参加して

蔵書1,000万冊を誇る上海図書館の新館オープニングセレモニーに上海市からの招聘を受け、暮れも押し迫った12月19日から23日まで訪中した。

北京国家図書館に次ぐ中国で2番目に大きい上海図書館は、地上25階、延床面積83,000㎡の巨大図書館で、国際都市上海を象徴する堂々たる白亜の殿堂である。

正面向かって右側は25階建106m、左側は13階建56mのタワー式ビルで、各々5階まではスカート型に広がっており、両翼を結ぶ中央はエントランス・ホールとなっている。

館内は、A、B、C、Dと4つに区分され、A区は古典籍、近代史資料、マイクロ資料部門の閲覧室と行政管理部門、B区は玄関ホールと300席の多目的ホール、C区は中国語、外国語の新刊が開架されている閲覧室、コンピュータ室等、D区は320席の移動式多国語同時通訳設備を有する学術活動室（会議・研究室）、824席の講演ホール、500㎡のギャラリー、AVコーナーと視聴覚編集作業室となっている。

資料の検索は、コンピュータ入力未だ20万冊程度ということで、目録カードが各室に整然と配列されている。

5階から上は全て書庫で、各閲覧室への図書搬送はドイツ製のテレ・リフトが導入されており、天井から何台もの箱がゆっくりと上下左右に昇降している光景は圧巻であった。



上海図書館正面

各種一般閲覧室38室、研究閲覧室24室、AV資料研究室8室、総閲覧席数3,036席で、開架冊数は約80万冊という各国の国立図書館に匹敵する大規模な図書館である。

中国ではいま続々と図書館が建設されており、府立中央図書館にも上海はもとより、北京国家図書館、河北省、遼寧省などの図書館からの視察が相ついでいる。

中国は世界で最も早く図書館を有した国の一つであり、貴重な古代資料を保存し、中国のみならず世界の文化に貢献した国である。

上海図書館が世界的な図書館としてますます発展されるとともに、今後長期にわたって府立中央図書館との友好交流が促進されることを期待してやまない。（松本、加藤）



「電子図書館」の実用化に向けて

誰でも参加できる—電子図書館システムの実証実験

府立中央図書館は、「電子図書館システムの実証実験」に全国の公立図書館で唯一利用評価館として参加しています。

実験は、京阪奈学研都市の新世代通信網実験協議会（BBCC）が国立国会図書館と連携して実施、当館と、BBCC、国立国会図書館（東京）、国際日本文化研究センター（京都）間をB-ISDNの高速ネ

ットワーク環境で結び、竹久夢二等の児童書や葛飾北斎、安藤広重らの版画等、デジタル（電子）化された資料を当館2階に置かれた専用端末で呼び出して、どなたでも自由にご覧になるこ

